

件名	第27回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム結果概要
日時・場所	平成28年1月16日(土) 13:30~16:00 藤沢リラホール (藤沢市鵜沼石上1-1-15-5F)
内容	<p>1 開催趣旨 水源環境保全・再生に係るこれまでの取組についての情報提供・発信等を行うとともに、「第3期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画(素案)」について、県民の意見を幅広く収集することを目的に実施した。</p> <p>2 開催内容</p> <p>(1) 主催者あいさつ(5分) 水源環境保全・再生かながわ県民会議 田中 充 座長</p> <p>(2) ミニ講演(講演20分×3名、質疑応答15分)</p> <p>①「生態系としての相模川」吉村 千洋 氏 (東京工業大学大学院理工学研究科准教授)</p> <p>②「私にとっての狩猟」奥山恭代 氏(猟師・自然食研究家)</p> <p>③「山北町森林組合の取組み」池谷和美 氏(山北町森林組合専務理事)</p> <p>(3) 水源環境保全・再生施策及び第3期実行5か年計画素案の説明、質疑応答(施策説明40分、質疑応答20分)</p> <p>3 来場者数 93名 ※アンケート回収数71枚</p> <p>4 質疑応答</p> <p>(1) ミニ講演に係る主な質疑応答</p> <p>(Q1) おいしそうな料理を紹介されたが、どこに行ったら食べられるのか。 (A1) 猟師がお肉を捕ったからといって、簡単に販売できる訳ではない。許可を受けた食肉加工施設に持ち込んで、そこが販売するという形しかとれない。(奥山 恭代 氏)</p> <p>(Q2) 材木について、どういう使い方をすればもっと林業が活性化するか、もっとこうしてほしいという提案があったら教えていただきたい。 (A2) 県産材を使った台所のまな板を検討していただきたい。神奈川県産材を専門的に扱っている「神工舎」さんのお力を借りて、山北町森林組合でも販売メニューにしたい。(池谷 和美 氏)</p> <p>(Q3) 「上流域の排出改善」とは具体的に何を指しているのか。 (A3) ダム上流域の水質の改善について指している。ダムの上流から生活排水が混ざり、栄養分が豊富な状態でダムに流入することで、場合によっては水道に臭いがついたり、有害物質を発生するということもある。ダム上流域の水質の改善について、神奈川県で対策を進めているところである。 (吉村 千洋 氏)</p> <p>(2) 素案に係る主な質疑応答</p> <p>(Q1) 第3期計画の中で、ササ枯れの問題については触れられていないようだが、いかがか。(秦野市・男性)</p> <p>(A1) 素案の18ページにおいて、第2期までの課題の中でササ枯れについて取り上げている。ササは土壌を抑えるのに重要な役割を果たしており、ササの枯死により土壌の流出も危惧される。19ページにおける「②中高標高</p>

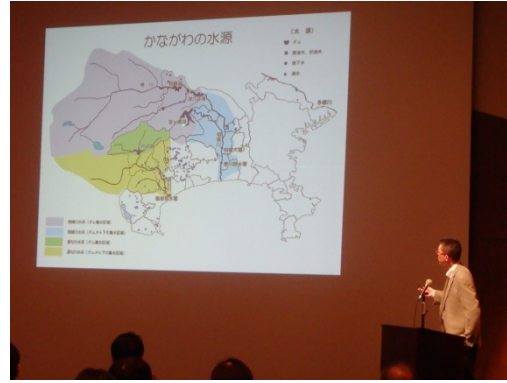
	<p>域の自然林の土壌保全対策の実施」の中で記載させていただいているが、ササの枯死に起因する土壌保全対策についても取り組んでいきたいと考えている。(濱名森林再生課長)</p> <p>(Q2) 県の対策により、ブナの林が少しずつ変わってきたのかどうか。県民に具体的に見えるような形、「見える化」をしていただきたい。第3期計画の中で検討いただきたい。(元県民会議委員・男性)</p> <p>(A2) ブナの衰退について、大気汚染、乾燥の問題、ブナハバチの大量発生等が原因であると仮説がたてられてきたが、最近これらを支持する知見が出されたところである。現在、ブナハバチが大量発生する時期についてや、ブナを一本一本守る方法について技術開発を進めているところである。また、シカに若芽を食べられていることについても、対策としてシカの管理捕獲を進めているところである。50年先を見越して、水源税を活用しながら取り組んでいきたいと考えている。(自然環境保全センター山根部長)</p> <p>(Q3) 計画の全体がよくわからない。例えば、「3 土壌保全対策の推進」と出ているが、「水源林の基盤の整備」は箇所数が70と出ている。全体として必要な箇所数がいくつあって、その中で70箇所と見えると話がもっとよくわかると思う。(藤沢市・男性)</p> <p>(A3) 全体の数字はわかりにくかったと思う。平成22年の台風によるスコリアの問題がある場所で申し上げると、100箇所ほど緊急に手を入れたい場所がある。また、スコリアの問題だけでなく、最近の局地的な雨によって標高が高いところでも同じような崩壊が起きている。これについては、第3期の中で、どのくらいあるのか調査をした上で対応し、さらには20年計画の中で対応したいと考えている。(濱名森林再生課課長)</p> <p>(Q4) 生活排水処理関係の整備は本来基礎自治体が主体的にやるべきこと。この計画を見ると、県が全てやる様にも見える。下水道、合併処理浄化槽は本来市町村で整備すべきことだが、水源保全地域なので水源環境保全税で支援することについて県と市町村で話があるのか。(横須賀市・男性)</p> <p>(A4) おっしゃるとおり、生活排水対策は市町村の仕事である。県としては、水源環境保全・再生施策の中で、市町村に対して交付金という形でお配りさせていただき、市町村において合併処理浄化槽に転換するご家庭の支援をさせていただこうとしている。ダムより下の公共下水道については、市町村の公共下水道、合併処理浄化槽の計画の中で取り組んでいく。市町村がどの部分を計画するのか、どの部分を交付金対象として申請するのか、市町村と県で活発に情報交換も行っている。(市川水源環境保全課長)</p> <p>5 開催効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ講演として、3名の講師の方から講演していただき、現場での取組みを情報提供することができた。 ・水源施策及び第3期実行5か年計画素案の内容について情報提供を行い、参加者から素案の内容に関して意見等が寄せられた。 <p>6 主催者</p> <p>水源環境保全・再生かながわ県民会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募委員7名が受付や案内などの会場運営及び司会進行を担当した。
特記事項	

※ 次頁に当日の写真を掲載

参考 (当日の様子)



県民会議 田中座長 主催者あいさつ



吉村氏 講演



奥山氏 講演



池谷氏 講演



計画素案説明 斎藤企画担当課長



質疑応答



会場全体風景



パネル展示・資料配架